



日本共産党区議会議員

こんにちは  
伊藤和彦です

自宅 足立区花畑6-20-1 電話3859-6952  
足立区役所 電話3880-5111（内線4650～4654）  
日本共産党区議団 直通3880-5770  
<http://www5.familie.ne.jp/~k-itou/index.html>

# 放射能対策を協議する条例と 食品検査器の設置求める条例討論



## 日本共産党

10月25日区議会本会議で行った日本共産党の放射能汚染対策協議会条例と食品検査器の設置を求める条例の否決に反対した討論を紹介します。議案には日本共産党、民主党が賛成。自民、公明、みんな、無党派は反対しました。

日本共産党区議団が提案した「足立区放射能汚染対策推進協議会条例」について総務委員会の否決に反対し、本案に賛成の立場から討論を行いました。

原発事故から2年半が経過してもなお区民の放射能汚染に対する不安は一向に減りません。放射能対策を求める陳情を話し

合う災害・オウム対策調査特別委員会には毎回多数の区民が傍聴に訪れ、この8月の委員会には対策を求める陳情の署名が約5000筆も追加されたことから明らかです。

しかし、区は放射能対策予算はゼロ、人員も専管組織も置かず、更には他区でやっているような給食の食材検査さえも拒否し、子供たちや区民の安心・安全の願いに応える姿勢がありません。

本条例は、子ども・被災者支援法の基本理念である放射線被ばく不安の早期解消努力を実現し、地方自治の住民自治の精神を具体化するものであり、専門家と住民と行政が一緒になって放射能対策を話し合い、放射能に対する区民の不安を減らし、対策を少しずつでも前に進めるための組織を作ろうというものです。

この条例を作ることによって議会だけでなく住民や専門家が一緒に話し合い、知恵も出し解決の方向について、区に対し意見の具申もできるようになるものでした。

審議した総務委員会で、賛成した民主党委員からは「まさに方向性としてはこのとおり。いろいろな立場の意見も聴きながら、情報を共有化し出来るところからしっかりとやっていく。そうした機関は必要」と発言がありました。また、他の党派からも「心配は尽きないと思う」「趣旨はよくわかる」「方向性としては決して間違っていないとは考えていない」など条例案は好意的に受け止められました。

区民の安全、安心を守り、放射能の不安を減らしていくことと方向性は一致しています。区民の不安に応え、安心安全を確保する「この一点力を合わせ、区民の付託に応えようではありませんか。今からでも遅くありません、区が他区ではやっている放射能の対策を何もやっていない中だからこそ、車の両輪の一方である議会がその役割を大いに発揮されることを心から願っています。

「足立区食品衛生検査施設の設備及び職員の配置の基準に関する条例」の一部を改正する条例の

第21回

増税よりも、被災地支援、原発ゼロを

# 北部ふれあいまつり

11月17日(日) 午前10時開会

陣川戸公園 花畑区民センター付近  
北部ふれあいまつり実行委員会



否決に反対する討論

厚生委員会の否決の決定に反対し、可決を求める立場から日本共産党足立区議団の討論を行いました。

本条例は、食品の放射能測定を区独自に実施で

2面につづく



# 食品の放射能測定を区独自に実施する体制をつくり区民をまもれ

1面よりつづく

きる体制を構築することにより、食の安全と安心を確保し、放射能汚染から子どもや区民を守るために提案したものです。

委員会では、他党議員からは一言の質疑もなく、食品は「流通しているものは検査して基準値を下回っている」「問題ない」と主張し否決としてしまいました。

しかし、食品検査は全量検査ではありません。さらに内閣府食品安全委員会は放射性物質の食品健康影響評価につ

いて、「100ミリシーベルト未満の健康影響について言及することは現在得られている知見からは困難」とは言っているにもかかわらず、問題ないなどとは言っていません。

だからどの区でも、給食の食材検査などを行っています。

世田谷区では陰膳方式で測定し、基準値未満でも数値が出たものをまとめるだけで、どのような食品が検出しやすいのかを把握し、放射能汚染を避けるための参考にできま



ましてや区民農園や自宅のミニ菜園で取れた野菜や釣った魚など、区民が「放射能汚染されているかどうか知りたい」との安全安心を求める声を完全に排除する姿勢です。

原発事故以来放射能汚染は一層深刻で、「汚染水がタンクからあふれた」「パイプの継ぎ目から漏れていた」「外洋にも直接漏れ出していた」など、新たな汚染が広がり、高い数値の放射性物質が検出され、いつ内部被ばくがおこってもおかしくない状況が続いています。「コントロールされている」「完全にプ

ロックされている」というのは全く逆で、海も陸も放射能で汚され続けている、これがいまの現実です。

区民や子どもを放射能から守ろうと農産物や水産物汚染内部被ばくが心配で区に放射性物質の測定を実施するよう沢山の陳情が提出されているのも当然です。足立区は、その声に応えるべきです。

足立区には食品衛生検査施設「衛生試験所」があり、食品の安全性を確保するために、飲食に起因する衛生上の危害

の発生を防止し、区民の健康の保護を図るために必要な検査を行っています。この施設に放射性物質測定器を配備すれば、食品の放射性物質の測定を実施することができ、食品の安全安心を確保し、学校給食の食材や、土壌の放射性物質の測定をしてほしい。家庭菜園の野菜やくだもの、川で釣った魚など安全かどうか測定してほしいなどなど区民の願いが実現できます。

なお委員会では、「個別的にも検査ができる体制は『都

まして討論を終わります。」

や国のほうでも、そういう機関は民間にもあり、区がやる必要があるのかももう少し研究しなければ」という旨の発言もありましたが、区民に最も身近な自治体で検査体制が構築されてこそその役割は果たせるものと考えます。

足立区と議会が一丸となつて、放射性物質から区民や子どもを守り食の安全安心を確保するために、あらゆる努力を尽くされることを強く求め

「意見を寄せ下さい

## 新たに3か所の認可保育園整備へ

新しい「待機児童解消アクションプラン」が発表され、今年・来年の認可保育園などの整備計画が明らかになりました。西新井第3団地、梅田、保塚・六町など新たに3か所で認可保育園整備し、27年4月には418人分の認可保育園が増えることとなります。「保育所をつかってネットワーク」ははじめババママさんの運動や議会での共産党の論戦を反映した計画になりました。



「保育園つくって！」の運動と論戦が区政を動かした！

従来から計画のあった2か所と合わせて、2年間で5か所整備されることとなります。

### 2年間の認可保育園整備計画 (網かけ部分が新たな計画)

整備年度	整備地域	定員
H25年度	千住大橋駅周辺	60
H26年度	東綾瀬地域（UR建替え）	103
H26年度	梅田地域	85
H26年度	8ブロック（保塚・六町地域）	85
H26年度	西新井第三団地	85